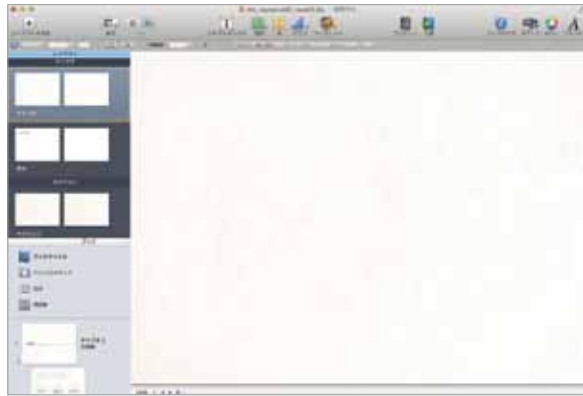


Point 1 透明機能を活かした上品なデザイン



① 繰り返し使用するデザインは、[表示]メニューから[レイアウトを表示]を選択し、マスターとなるページで行います。



③ 筆跡のようなラインのデザインは、文字との重なりを見ながら思い切って不透明度を下げます。



② 背景に和紙の画像を配置し、位置を調整しながら[インスペクタ]パネルの[グラフィック]で[不透明度]のスライダを動かし、うっすらと見える程度に調整します。



⑤ 写真とテキストとのつなぎ目は、そのままでは境界線がくっきりし過ぎて気になるので、境界上に長方形の図形を配置します。



④ 武将の家紋も画像として配置し、不透明度を下げてさりげないあしらいにします。



⑥ オブジェクトに図のように[グラデーションの塗りつぶし(詳細)]の設定を行います。全体は白ですが、左右にいくに従って不透明度がゼロになっています。これで画像とテキストに自然なじむぼかしが表現できます。



⑦ 略歴のテキストを[スクロールサイドバー]ウィジェットを使って配置します。



マルチタッチブックを作成、活用!

文・伊達千代

Look Up! iBooks Author

今号のテーマ

美しい書を書くための教本を作りたい!



iBooks Author 2.0

※アップルジャパン※ Mac App Storeからダウンロード(無料) ※ OS X 10.7.4以降

※ 2GBのRAM、1.2GBの空きディスク領域、Keynote '09 v5.2以降(Keynoteウィジェットに必要)、iBooks 3.0 (プレビューとブックバージョン管理に必要)、iTunes Producer v2.8 (ブックの公開に必要)、ネットワーク接続(ブックの公開に必要)

Point1. 透明機能を活かした上品なデザイン

iBooksオーサーは、オブジェクトに不透明度を設定することができます。この機能を活かして、デザインに上品な透明感と奥行きを表現することができます。

Point4. メディアの特性による機能の使い分け

今回の作品では、ムービーや静止画、静止画を組み合わせて作成したスライドショー、BGM、3Dデータとさまざまなメディアを、それぞれの目的に合わせて効果的に使用しています。

Point2. 比較のためのギャラリー機能

ギャラリーは複数の画像を1つの枠の中に収め、スワイプして表示させる機能です。今回の作品ではこの機能を、複数の筆致を比べて違いを見てもらうために使用しています。

Point3. インタラクティブな書のポイント解説

署名を書くときのポイントをより詳しく解説するために、[インタラクティブ]ウィジェットの機能を用いています。1つの図の中で、より細かい部分を解説したいときに便利な機能です。

今月のAuthor

満田和哉さん
株式会社サウスポイント
ディレクター。アーティストのマネジメントやプロデュースから、イベントの企画・制作・運営、著作権の管理までを主な業務としてこなす。同社所属アーティストである書家・野尻泰煌氏の担当ディレクターとして、書の展示会や書籍の出版などを企画している。
株式会社サウスポイントホームページ
<http://www.southpoint.co.jp>

なぜマルチタッチブックなのか?

- 「書」の動きを表現することができる
- iPadでどこでも見られる
- コンテンツの更新が容易
- iBooksストアのオープンを見越して

「書」の魅力を伝えたい

野尻泰煌氏は、スペイン芸術顕彰、国際書道芸術世界文化功労賞、カンヌ国際芸術賞最高賞、日伊表象文化特別賞最高賞など世界的な受賞歴を持ち、また書だけでなく陶芸や彫刻などのジャンルにも幅広く活躍するアーティストです。そんな野尻氏のプロモーション活動を担っているのが今回のオーサーである、サウスポイントの満田和哉氏。満田氏は野尻氏と関わる中で、文字の持つ力や書家の精神性・所作に魅せられたのだそう。

普段の生活では書や書家に接することが少ない今の人たちに、書の魅力を伝えるための1つの方法として考えたのが「書」を学ぶ、いわゆるお習字アプリの作成でした。発案当初はiPad用アプリとしての企画で考えていましたが、iBooksオーサーがリリースされたことを受け、マルチタッチブックの書の教本として完成させることにしたのだそう。iBooksストアが日本でもオープンすれば、将来的に販売も視野に入りたいとのことでした。

今回のマルチタッチブックでは、最終的に自分の名前、つまり署名をより美しく書けるようになることを目的としています。戦国武将の名前を見本として取り上げ、文字のバランスの取り方や書き方のポイントなどを野尻氏が丁寧に、そして詳しく解説しています。

「書を理解するには、筆の動きやスピード感などを実際に見てもらうのが一番です。そこで手元を対面から映した映像と、文字が書かれていくさまを筆順ごとに映した映像の2つを用意しました」(満田氏)。素人でもつい見入ってしまう野尻氏の見事な運筆の映像と、書家自身による詳しい解説とで「私にも書けそう」と感じさせる魅力的な教本に仕上がっています。

Point 4 メディアの特性による機能の使い分け



① 筆の運びがわかりやすいよう、アクリル板の上で1筆ずつ下から光を当てながら撮影したものを反転して動画にしています。微妙な筆遣いを見てもらうために、ムービーでなくてはならない素材であり、なおかつ配置サイズもあり小さくは扱いたくありません。

iBooksオーサーでは、ムービーや静止画像、3Dデータなどさまざまなメディアをマルチタッチブックに収めることができます。ただし、注意しなければならないのがデータ量。特にムービーのデータ量は大きいために、多用する場合にはいかに軽く済ませるかを考えなければなりません。どうしてもムービーを使いたい場合は、なるべく表示サイズを小さくしたり、ムービーでなくてもよい部分はスライドショーに置き換えるなどの工夫が必要になります。

完成

マルチタッチブックを作ってみて…

iBooksオーサーは操作も機能もシンプルでわかりやすく、さほど知識がなくても簡単にマルチタッチブックを作成することができました。署名のムービーなど素材を準備するのは大変でしたが、一度作成してしまえばWEBなどのほかの媒体とも共通で使っていくことができます。今後は同じテーマでのアプリ開発も視野に入れているので、そのプロモーション的なツールとしてのマルチタッチブック、というのもアリだと思いました。

今後の課題

今回のマルチタッチブックは、初心者の方にも「書」の楽しさを感じてもらえる仕上がりになったと満足しています。ムービーや書家のコメントなどを画像に付加できるのは、マルチタッチブックならではのよさだと感じました。今後さらにコンテンツを充実したものにしていくとともに、もっと書の精神性や漢字のパワーを伝えられるような仕組みができないのか、考えていきたいと思います。

② ページの右側に配置しているのは、対面から撮影してあるムービーです。こちらはファイルサイズを小さくするために、小さめにレイアウトしています。

③ プロフィールのページに配置したスライドショーの画像です。もともとはムービーファイルとして作成していましたが、ファイルサイズをコンパクトにするため、静止画をつなぎ合わせてキーノートでスライドショーにしました。



④ 野尻氏の篆字作品です。3Dファイルになっており、iPad上でクルクル動かして、さまざまな角度から見るすることができます。



Mac Fan.jp 完成作品は本誌WEBサイトに公開!

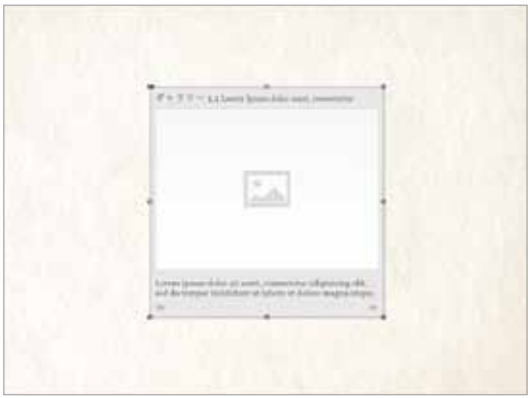
活用事例&作ってみたい方募集!

Mac Fanでは、iBooksオーサーを使った事例を募集しています。下記宛先にご連絡ください。ご応募いただいた事例は本誌WEBサイトにてご紹介させていただきます。また、本連載用に取材をお願いさせていただくこともあります。これを機に作ってみたい、新しい宣伝の手段として考えたい方もぜひこちらへ!

宛先:mfuser@mynavi.jp 件名:[iBooksオーサー事例応募]

Look! ここでは映像をスライドショーに置き換える方法を紹介しましたが、今回の作品ではこの工夫により40MB以上圧縮することに成功しています。またムービーの配置サイズの調整でも、1つあたり10MB程度は上下しますので、ぜひいろいろ試してみてください。

Point 2 比較のためのギャラリー機能



① [ウィジェット]から[ギャラリー]を選択します。作成されたオブジェクトの中に配置したい画像をドラッグ&ドロップして入れます。

② [インスペクタ]パネルで、ギャラリーウィジェットを図のように設定します。これで毛筆とその他の筆記具との署名の書き方をスワイプで切り替えて比較しやすい状態になります。



複数の画像を1つのスペースに入れて、スワイプで画像を切り替えることができるのが、iBooksオーサーの「ギャラリー」ウィジェットです。紙の本の場合は、写真をたくさん入れるためにはそれ相応のスペースが必要ですが、マルチ

タッチブックではコンバクトにまとめることができるのです。今回の作品では、筆以外の筆記具で書いた署名の画像をギャラリー機能を使って配置することで、筆の運びとの違いがわかりやすくなっています。

Point 3 インタラクティブな書のポイント解説



① [ウィジェット]から[インタラクティブ]を選択します。図のような枠が表示されますので、ここに解説の元になる図の画像をドラッグ&ドロップで配置し、位置を整えます。

「インタラクティブ」ウィジェットを使えば、1つの図の中により詳細な解説を書き込むことが可能になります。それぞれの解説は、iPad上でタップすることで拡大表示される仕組みです。今回は署名の漢字を書く際に特に注意すべきポイントについて、この機能を使って入れています。



③ そのほかのポイント解説も同様の手順で配置すれば、インタラクティブウィジェットの部分は完成です。ポイントが視覚的に解説されているのがわかります。

② 解説の数は[インスペクタ]パネルの[ウィジェット]→[操作]にある[+][−]ボタンで調整できます。まず1つ目の解説を作り、実際の画像上の解説したいポイントに移動します。テキストを入力し、拡大率を図の付近に表示されるスライダでコントロールしましょう。

Look! インタラクティブウィジェットの解説は、基本的に同じ拡大率に設定するほうがよいでしょう。またわかりやすくしようとむやみに拡大率を上げてしまうと、画面移動の際の変化が大きくなり過ぎて見る人が酔うような感覚になってしまうので気をつけてください。